

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育実習 Teaching Practice		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
4単位	実験実習	必修	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)))	英語フィールド教員養成課程ユニットを履修している者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜の3から4時限、火曜の3から5時限		授業中に指示します
授業の概要				
教師として必要な教職に関する知識・技術等を習得し、生徒の理解を深め、教師の仕事の喜びと難しさを体験的に理解する。教師として職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する経験を経て、大学で学んだ知識・技術を生徒との関わりのもとで具体的に検証し、さらに進んで新たな研究の課題を見出すように促す。				
授業の目標				
①教育実践を体験することを通して、教職に関する知識・技術等を習得し、生徒の理解を深めるようにする。 ②教師の仕事の喜びと難しさを体験的に理解するようにする。 ③教師として職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する体験を得るようにする。 ④大学で学んだ知識・技能を生徒との関わりのもので具体的に検証するようにする。 ⑤新たな教育上の研究課題を見出すようにする。				
授業の方法				
実習における観察、参加、実践活動とそれに対する指導・助言を行う。				
学習の成果(学習成果)				
①教育実践を体験することを通して、教職に関する知識・技術等を習得し、生徒の理解を深めることができる。 ②教師の仕事の喜びと難しさを体験的に理解することができる。 ③教師として職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する体験を得ることができる。 ④大学で学んだ知識・技能を生徒との関わりのもので具体的に検証することができる。 ⑤新たな教育上の研究課題を見出すことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	教職の専門性			
第2回目	生徒の理解と指導			
第3回目	教職の倫理			
第4回目	学校経営・学年経営・学級経営			
第5回目	教育課程と指導の計画			
第6回目	特別活動の指導			

第7回目	道徳の時間の指導	
第8回目	総合的な学習の時間の指導	
第9回目	教科の指導（教材研究、指導法、指導案、評価等）	
第10回目	中学校英語科の指導の計画	
第11回目	中学校英語科の指導の計画	
第12回目	中学校英語科の指導の実践	
第13回目	中学校英語科の指導の実践	
第14回目	中学校英語科の指導の評価	
第15回目	反省とまとめ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他	100%	教育実習高での成績評価、実習巡回や普段の態度等を総合的に考慮して成績を付ける。
教科書と参考図書		
『教育実習の手引き』佐野短期大学		
履修上の留意点・ルール		
教育現場での実習のため、あらゆる面で細心の注意をおこたらないこと。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育実習 Teaching Practicc		2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
4単位	実験実習	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育実習指導 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教育実習事前事後指導				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人、大室精一、小竹利夫、大塚登、秋山真奈美・高橋登美子・保坂里絵	本館・講義棟 2階と3階	講義者の講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
1年次に観察実習を行い、2年次において参加、実習(部分・責任)の段階へと進み全体的な教育実習を行う。その実習過程を通して自立的な幼稚園教諭として必要な教職に関する知識・技術を習得し、併せて教師の仕事の楽しさと難しさを体験的に把握する実地教育の場とする。				
授業の目標				
①実際の教育の場に臨んで、幼稚園の一日の流れ、園児の発達過程、教師の教育指導、教育環境の構成等についての全体的な認識を深めることができるようにする。②教師の教育指導を助手的立場から直接園児の教育に参加し、園児の実態、教師の仕事の内容など教育事象一般を体験を通じて具体的に習得することができるようにする。③指導教諭の指導のもとではあるが、自ら指導計画、指導案を作成して、園児に対して実際に指導を行うことができるようにする。				
授業の方法				
教師の職務、保育内容の指導、学級経営、幼児の発達と学び等々、幼稚園教育全般について考察し、課題意識をもって観察5日間、総合15日間の実習を行う。				
学習の成果(学習成果)				
①就職する以前に自立的な教師として自己の職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する知識、技能、態度を修得し、教育実践に活用、応用することができる。②大学で学んだ知識・技能を幼児とのかかわりのもとで検証し、新たな関心や課題を見出すことができる。③最新の幼児教育に関する研究成果を踏まえ、保育の内容及びそれを具体化する最適な方法を創意工夫し、幼児の健全な発達を促す保育、教育を考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
1年次〔観察実習5日間〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・11月に5日間の観察実習に臨む。 ・2年次に行く総合実習のためのオリエンテーションの意味合いを持ち、幼稚園に対する興味・関心を深め、幼児に対する親愛の気持ちで育てる。 ・年少、年中、年長の子どもたちの生活はどのようになっているのか、その発達の違いに気付いたり、クラスに配属されることによって、1日の生活の流れや、個々の子どもについて、あるいは、保育者の子どもとの関わり方について、観察し参加する。 				
2年次〔総合実習15日間〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・6月に15日間の総合実習に臨む。 ・幼児や幼稚園の実態についての理解を深めていくと同時に、具体的な経験を通して幼児指導(教育)の方法や、保育者のあり方を学習し、保育者の職務についての理解を深めて、自己の保育者としての適性についても考える。 				

・観察、参加、部分、責任の実習の段階を追って経験し、子どもとの生活を通して、子どもについてあるいは保育者のさまざまな役割について具体的に学ぶ。

ここで実習が完成されるわけではなく、また更なる自己課題を持ち、教育実習事前事後指導などの授業を通して、学びを深めていく。

《教育実習で学ぶこと》

- ・「幼稚園を学ぶ」「幼児から学ぶ」「保育者から学ぶ」という姿勢で謙虚に臨む。
- ・「実習生といえども、保育者の端くれなのだから、何か子どもに教えてやろう」などという思いあがった姿勢ではなく
 - 子どもを一人の人として尊重すること
 - 子どもの目の高さになって考えること
 - 子どもの気持ちになって理解する努力をすること

といった基本姿勢をもって実習に臨む。

更には、クラス運営、多様な仕事、環境の構成、保育計画、諸帳簿の整備についても、積極的に学んでいく機会とする。

- ・実習日誌の記入を経験することで、子ども理解に努めながら指導の配慮や留意点についても学ぶ。
- ・責任実習においては、子どもの生き生きとした活動を目指した指導案を作成し、責任を持って取り組むことで、幼児教育者としてのあり方に気付く。
- ・実習後は自己への課題についての学習に取り組み、保育現場において必要な人材として自ら向上心をもって、知識・技術・人としての学びを深めていく。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	100%	実習機関における評価基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価は不可に値する。(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する)
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

「教育実習の手引き」佐野短期大学 参考図書:「幼稚園教育要領」文部科学省

履修上の留意点・ルール

教育実習事前事後指導を必ず受講し、明確な目的意識、課題を持って臨むこと。習熟度によっては実習に臨めない場合もある。